

大分空港・宇宙港将来ビジョン検討部会 第3回資料

～将来像及び具体的な取組について～

◇ 検討部会 全体スケジュール(案)

<p>第1回検討部会 令和3年10月14日</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ 全体スケジュール(案)の説明➤ 大分空港・大分県の現状等の整理➤ 宇宙への挑戦➤ 上記を踏まえた大分空港・宇宙港の課題・期待等に関する意見交換
<p>第2回検討部会 令和3年12月9日</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ 第1回の議論及び空港を取り巻く追加の分析を踏まえた大分空港・宇宙港の課題・期待等の再整理➤ 上記を踏まえた取り組むべき施策の方向性に関する意見交換
<p>第3回検討部会 令和4年2月10日</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ 第2回の議論を踏まえた大分空港・宇宙港の将来像についての考え方の整理➤ 将来像及び具体的な取組についての意見交換
<p>第4回検討部会 令和4年3月頃～</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ 第3回の議論を踏まえた将来像、具体的な取組についての整理➤ ビジョン素案についての意見交換

◇ 第3回検討部会までの作業の流れ

- 第1～2回検討部会での議論を踏まえ、事務局にて大分空港・宇宙港将来ビジョンの骨格を作成し、項目ごとに現状分析と具体的な取組を整理した上で、ビジョン素案としての全体イメージを取りまとめた。

Step1

- 第1～2回検討部会資料やこれまでのご意見・ご提案を元に、事務局が取りまとめ

Step2

- 5つの項目に分類し、大分空港・宇宙港将来ビジョンの骨格を作成

Step3

- 項目ごとに具体的な取組を整理し、大分空港・宇宙港将来ビジョン（素案）全体のイメージを作成

第3回大分空港・宇宙港将来ビジョン検討部会にて提示（今回）

【目次】

1. 大分空港・宇宙港将来ビジョンの骨格
2. 具体的な取組
3. 定量的目標の考え方

1. 大分空港・宇宙港将来ビジョンの骨格

◇ 大分空港・宇宙港将来ビジョンの骨格

『ドリームポートおおいた』の実現 ～陸・海・空そして宇宙につながる唯一無二の空港へ～

【航空ネットワークの拡充】

ターゲット路線

《国内線》

- ・三大都市圏（首都圏、関西圏、中部圏）路線
- ・新たな地域間路線

《国際線》

- ・韓国/台湾/中国/香港等の東アジア主要都市路線
- ・東南アジア主要都市路線

- **誘致・就航支援体制の構築:** エアポートセールス体制の構築、路線定着に向けた支援の実施 等
- **利用促進・需要創出:** 大分県への来訪需要を喚起する取組、就航路線の利用増加につなげる取組 等

【アジアと宇宙をつなぐ宇宙港の実現】

- **サブオービタル飛行等の新たな輸送ビジネスに対応し得る「宇宙港」の実現:**
空港と宇宙港との併用運用、関連施設・設備の整備、観光プログラムや受入れ環境の整備 等
- **アジアにおける宇宙ビジネスの中核拠点化:**
宇宙ビジネスの創出、企業誘致 等
- **宇宙人材の育成:** 人材育成プログラムの構築、国際交流・教育機会の提供 等

【戦略的な空港運営】

- **コンセッション方式の導入検討:** 民間による一体的・戦略的な空港運営を可能とするコンセッション方式の導入検討 等
- **関係団体との連携:** 空港利用促進に向けた連携体制強化 等

【空港アクセスの改善・拡充】

- **海上アクセスの導入:** ホーバークラフトの導入推進、ホーバークラフトによる新たな空港利用需要の創出 等
- **利便性・魅力度の高い空港アクセスの実現:**
MaaS導入推進、利用者のニーズに応じた多様な移動サービス等の検討、駐車場の機能強化 等

【空港機能の拡充及び魅力向上】

- **空港利用者の満足度向上:** 先端技術導入等による空港サービス拡充、ユニバーサルデザイン化の推進 等
- **地域に根ざした空港づくり:** 地域資源を生かしたイベント開催、大分県の魅力発信拠点機能の拡充 等
- **カーボンニュートラルの推進:** 空港からのCO₂削減推進、空港のカーボンニュートラル拠点化検討 等
- **リスクマネジメント力の強化:** パンデミックや災害等のリスク対応力強化、路線多角化によるリスク分散 等

2. 具体的な取組

◇ 航空ネットワークの拡充

➤ 大分県及び大分空港の魅力を活かし、更なる航空需要の創出を図る。

現状分析

- 国内線は、路線が限定的であり、九州内他空港と比較して旅客数・路線数が少ない。
✓ 現在4路線就航している。（羽田、成田、中部、伊丹）
- 国際線は、定期便の韓国路線のみとなっている。
✓ 現在3路線就航しているが、令和2年以降すべての路線が運休となっている。（ソウル、プサン、ムアン）
- 本県は豊富な観光資源を有しており観光地としての魅力が高い。（じゃらん宿泊旅行調査2021 魅力的な宿泊施設が多い県2位≪前年1位≫）
- 九州各県における地域の魅力向上や誘客促進の取組に伴い、路線獲得競争が今後益々激化することが予想される。

具体的な取組

国内線

- 経済規模の大きい三大都市圏（首都圏・関西圏・中部圏）との路線拡充を図り、大分県への来訪・県民の往訪需要の喚起、欧米豪等のインバウンド需要など、更なる航空需要の創出に繋げる。
- 就航可能性、県民の需要、鉄道に対する時間優位性等を踏まえた、新たな地域間路線（沖縄、北陸、東北等）の開拓を図る。

ターゲット

国際線

- 短期的には、韓国路線の復活を図るとともに、地理的に近接しており、就航の可能性が高い台湾/中国/香港等の東アジア主要都市路線の拡充を図る。
- 中長期的には、経済成長著しい東南アジア主要都市路線の拡充を図る。

ターゲット路線就航・増便に向けた取組

誘致・就航支援体制の構築

需要創出・利用促進

◇ 航空ネットワークの拡充

誘致・就航支援体制の構築

● 誘致・就航のための支援体制を構築する。

- ✓ 行政・DMO・観光関係者等が一体となったエアポートセールス体制を構築する。
- ✓ 行政・ビル運営会社等の連携により、増便及び空港利用者増加に応じた受入体制を整備する。
- ✓ 安定した運航を実現するため、路線定着に向けて必要な支援を実施する。 等

需要創出・利用促進

国内線

(インバウンド)
大分県来訪者

● 大分県への来訪需要を喚起する取組

- ✓ DMOや観光事業者等と連携し、大分県が有する温泉等の魅力的な観光資源を活用した、アドベンチャー・ツーリズム、ワーケーション等の新たな観光需要を創出する。
- ✓ 宇宙港構想やホーバークラフト就航など大分県独自の魅力を活かした、新たな来訪需要創出のためのブランディングやプレミアム感のある旅行商品造成に向けて国内旅行会社、交通事業者等との連携を図る。
- ✓ 国内外の各種メディアにて観光プロモーション等を行い、大分県の観光情報の発信を強化する。 等

● 就航路線の利用増加につなげる取組

- ✓ 県内の観光関係者等と連携し、SNS等で大分路線と観光地の魅力、モデルコースを合わせた情報を発信する。
- ✓ 大分路線を利用するFIT旅行者をはじめとした多様なニーズに応じた二次交通や観光オプション等が提供できる『大分空港を起点としたMaaS』の導入を図る。 等

(アウトバウンド)
大分県民

● 県民の往訪需要を喚起する取組

- ✓ 就航地域や就航ターゲット地域と連携し、県内の主要交通拠点や商業施設等において県民向けの観光情報を発信する。 等

● 就航路線の利用増加につなげる取組

- ✓ 就航地域や就航ターゲット地域と連携し、SNS等でこれらの観光地の魅力、モデルコースを合わせた情報を発信する。
- ✓ 大分路線を活用した県外旅行商品の造成・販売支援を行う。
- ✓ 広域間流動拡大のため、就航先の航空会社と連携した乗り継ぎに関する情報を発信する。
- ✓ 大分空港リピーター創出に向けた各種割引や利用特典等、県民向けの大分空港利用促進事業を実施する。 等

◇ 航空ネットワークの拡充

需要創出・利用促進

国際線

(インバウンド)
大分県来訪者

● 大分県への渡航需要を喚起する取組

- ✓ 現地の旅行博等への参加（現地の事業パートナー等の活用を含む）やSNS、県内留学生等を通して大分県の魅力を発信する。
- ✓ 現地の航空会社や旅行会社、メディアやインフルエンサーを招聘した県内を巡るファムツアーを実施する。
- ✓ 富裕層等をターゲットとした九州内他空港や九州観光推進機構との広域周遊ルート（イン・アウト別空港利用の需要を含む）を開発する。
- ✓ DMO等と連携して、訪日リピーター向けのテーマ性・趣味性が高いコースを造成・発信する。
- ✓ LCC路線の誘致・拡充により、潜在需要の掘り起こしを図る。 等

● 就航路線の利用増加につなげる取組

- ✓ 県内の観光関係者等と連携し、FIT向けに大分路線と観光地の魅力、モデルコース等を合わせた情報を発信する。
- ✓ 留学生を中心とした外国人在住者を訪ねる親戚・友人利用の増加に向けて、大分路線の情報を発信する。
- ✓ 近隣空港や九州観光推進機構等との連携による広域周遊需要獲得（イン・アウト別空港利用の需要を含む）のための共同プロモーションを行う。 等

(アウトバウンド)
大分県民

● 県民の海外渡航需要を喚起する取組

- ✓ 就航地や就航ターゲット地域の観光公社や県内の旅行会社等と連携し、メディアやSNS等を通じて県民向けに観光情報や魅力を発信する。 等

● 就航路線の利用増加につなげる取組

- ✓ 現地の観光公社等と連携し、大分路線と観光地の魅力、モデルコース等を合わせた情報を発信する。
- ✓ 大分路線を活用した県民向けの旅行商品の造成・販売支援を行う。
- ✓ 留学生を中心とした外国人在住者や経済団体等に対し、大分路線の情報を発信する。
- ✓ 大分空港へのアクセスや現地二次交通の利便性に関する情報、就航地空港での乗継利便性や乗継方法を発信する。 等

◇ アジアと宇宙をつなぐ宇宙港の実現

- 宇宙港を実現させることで、「ドリームポートおおいた」としての独自の魅力を打ち出し、大分空港及び地域の更なる活性化を図る。

現状分析

- 大分県とVirgin Orbitは、大分空港の水平型宇宙港活用に関するパートナーシップを締結（2020年4月2日）し、現在、大分空港の水平型宇宙港としての活用に向けて、法律面、ハード面、ソフト面等について、Virgin Orbitとも連携して、調査・調整を進めている。
- 米国に存在するスペースポート（モハベ航空宇宙港、スペースポートアメリカ）はともに砂漠地帯に立地しており、アクセスやサポート機能（飲食・宿泊など）の利便性に課題があるため、大分空港には立地上の優位性があると考えられる。

具体的な取組

サブオービタル飛行等の新たな輸送ビジネスに対応し得る「宇宙港」の実現

- 人工衛星打ち上げやサブオービタル飛行など、各フェイズ（技術面、制度面等）に対応した取組を進める。
 - ✓ 空港と宇宙港との併用運用の実現のため、必要な調整等を図る。
 - ✓ 宇宙港関連施設・設備の整備を図る。
 - ✓ 宇宙港に関連するサプライチェーンの構築を目指す。
 - ✓ 宇宙港に関連する観光プログラムの構築・展開を図る。
 - ✓ 観光客及び打ち上げ関係者等の受入れ環境の整備を進める。 等

◇ アジアと宇宙をつなぐ宇宙港の実現

アジアにおける宇宙ビジネスの中核拠点化

● 宇宙港を通じた、宇宙ビジネスの創出を推進する。

- ✓ 宇宙港を核とした宇宙ビジネスの創出、宇宙関連企業の誘致、宇宙に関連した研究促進を図る。
- ✓ アジアにおける拠点化を目指し、関係国との交流・連携を促進する。
- ✓ 県内企業の宇宙産業への参入促進を図る。 等

宇宙人材の育成

● 域内における宇宙人材の育成を目指す。

- ✓ 小・中・高・大等、STEAM教育等との連携による、宇宙人材創出の仕組みを構築する。
- ✓ スペースポートの国際的なネットワークを活用した、国際的な交流・教育機会を提供する。
- ✓ 県内企業関係者等、企業人材育成の場を創出する。 等

◇ 空港アクセスの改善・拡充

- 空港利用者の多様なニーズに応えるため、空港アクセスの改善を図るとともに、移動手段と多様なサービスを組み合わせたMaaSの導入等を推進することにより、空港アクセスの利便性・魅力度向上を実現する。

現状分析

- 県中心部（大分市）から空港までのアクセスは、国内他空港と比較すると著しく時間を要する状況となっている。また、陸路しかないため、事故や天候不良（大雪など）等による道路交通途絶時の対応が課題となっている。
- 県内各地域との主要な交通手段は、空港バス、自家用車、レンタカー、タクシーとなっている。
- 新たな空港アクセスとして、令和5年度中のホーバークラフト運航開始を目指した取組を進めている。

具体的な取組

海上アクセスの導入

- **ホーバークラフトの導入に向けた取組を推進する。**
 - ✓ 関連施設の整備を含め、令和5年度中のホーバークラフト運航開始に向けた取組を着実に進める。
 - ✓ ホーバークラフト導入による、アクセス時間の短縮や、陸路と海路の複数ネットワークの構築など、空港アクセスの改善を図る。 等
- **ホーバークラフトによる新たな空港利用需要の創出を図る。**
 - ✓ ホーバークラフトの速達性を活かし、近隣空港から大分空港への利用転換を図るなど、ビジネスを中心とした新たな需要を創出する。
 - ✓ 国内唯一となるホーバークラフトの希少性やアクティビティとしての魅力等を活かした新たな観光需要を創出する。 等

利便性・魅力度の高い空港アクセスの実現

- **大分空港を起点としたMaaSの導入に向けた取組を推進する。**
 - ✓ 空港利用者一人一人のニーズに応じるため、移動サービスを最適に組み合わせ、検索・予約・決済等を一括で行うことができるMaaSの導入に向けた取組を推進する。
 - ✓ MaaS導入においては、多言語化機能やキャッシュレス機能を充実させるなど、インバウンド需要も見据えた機能拡充を検討する。
 - ✓ 宿泊施設や観光施設等との連携により、付加価値（割引やクーポン等）を提供する取組を検討する。 等
- **利用者のニーズに応じた多様な移動サービス等を検討する。**
 - ✓ 利用者が目的や特性に応じた最適な交通手段の選択ができるよう、また、空港アクセスの拠点となる交通結節点までのスムーズな移動が可能となるよう、多様な移動サービスの提供や交通網の整備・拡充等の可能性について検討する。 等
- **駐車場の機能強化を図る。**
 - ✓ 駐車場としての利便性を高めるための機能拡充や、空港利用者数の増加に対応できる必要十分な駐車スペースを確保する。 等

◇ 空港機能の拡充及び魅力向上

- 空港利用者の満足度向上や地域の活性化に向けた取組を行う。
- また、防災拠点やカーボンニュートラルの拠点としての機能拡充を図る。

現状分析

- 空港利用者の保安検査等に係る負担軽減や多様な利用者が快適に利用できるよう、先端技術の導入やユニバーサルデザイン化が各空港において進められている。
- 更なる魅力度向上に向けて、航空ファンなど航空機利用者以外も楽しめるイベントの開催や複合商業施設の併設など多様な施策の展開が求められている。
- 令和3年11月19日に閣議決定された「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」において、クリーンエネルギー戦略は成長戦略の一つと位置づけられ、空港の脱炭素化も推進される見込みである。国は「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、空港においては、施設・車両からのCO₂排出削減の取組を進めるとともに、空港の特性を踏まえた再生可能エネルギーの活用を加速させる必要があるとしている。

具体的な取組

空港利用者の満足度向上

- 先端技術導入等による空港サービスの拡充を推進する。
 - ✓ 先端技術導入等により空港サービスを充実させることで、空港の利便性向上を図る。 等
- 施設のユニバーサルデザイン化を推進する。
 - ✓ あらゆる利用者が快適に利用でき、特に外国人や高齢者、障がい者等も不自由なく利用できるよう空港施設や空港アクセスのユニバーサルデザイン化（多言語化対応、バリアフリー等）を積極的に推進する。 等

◇ 空港機能の拡充及び魅力向上

地域に根ざした空港づくり

● 地域資源を生かしたイベント開催等を推進する。

- ✓ 大分県内の豊富な地域資源や空港としての魅力を活用したイベント等、地域に密着した取組を積極的に企画立案実行し、空港とその周辺地域の活性化を図る。 等

● 大分県の魅力発信拠点としての機能を拡充させる。

- ✓ 大分県唯一の空の玄関口として、県内各地の県産品や観光情報等の発信力を強化し、更なる観光需要の創出に繋げる。 等

カーボンニュートラルの推進

● 空港からのCO₂削減を推進する。

- ✓ 空港施設や車両等からのCO₂排出削減を推進する。 等

● 空港を拠点としたカーボンニュートラル化を検討する。

- ✓ 県内の潤沢な再生可能エネルギーの活用も視野に入れながら、空港特性を踏まえた再生可能エネルギーの導入検討等を行い、大分空港自体が地域のカーボンニュートラル化の拠点となるよう様々な取組を積極的に推進する。 等

リスクマネジメント力の強化

● パンデミックや災害等のリスクへの対応力を強化する。

- ✓ 新型コロナウイルス感染症対策として、検温器や自動手指消毒噴霧器等の設置など、既存の感染症対策を引き続き徹底するとともに、対策についての情報を積極的に発信し、安心して利用できる空港づくりを推し進める。
- ✓ 地震や水害など災害発生時において、空港機能・航空ネットワークの保持や早期復旧ができるよう、事業継続計画（BCP）等に基づき、関係者が一体となって迅速な対応を実施し、自然災害に強い空港づくりを目指す。 等

● 国内線及び国際線双方の路線多角化を推進する。

- ✓ 様々な環境変化に対するリスクを分散させ、空港経営や地域への影響を安定化させる観点から、路線の多角化を目指す。 等

◇ 戦略的な空港運営

- 空港運営を戦略的に展開するため、大分空港へのコンセッション方式の導入可能性を検討するとともに、関係団体との更なる連携強化を図る。

現状分析

- 大分空港は、本県唯一の空の玄関口であり、経済活動、観光振興、関係人口の増加など、本県の発展を支える重要な交通基盤である。ポストコロナにおける社会経済再活性化や地方創生を加速させるためにも、大分空港の魅力を高め、いかに活性化させていくかが重要である。
- 民間のノウハウや資金を活用し、一体的・戦略的な空港運営を可能とするコンセッション方式の導入については、「PPP/PFI推進アクションプラン」において「原則として全ての空港へのコンセッションの導入を促進する」とされており、全国的にその導入が進んでいるところ。
- 先行導入空港においては、新規路線の誘致や駐車場のリニューアル等が行われるなど、空港の活性化が進められている。
- 国の調査事業を活用して、大分空港におけるコンセッション方式の導入可能性調査を行っている。

具体的な取組

コンセッション方式の導入可能性の検討

- 国の調査事業の結果や新型コロナウイルス感染症の影響・航空需要の回復状況等を見極めながら、国と連携しつつ、事業スキームの検討やリスク分担の精査等、大分空港へのコンセッション導入可能性について、引き続き検討を行う。 等

関係団体との連携

- 空港利用促進に向けた連携体制を強化する。
 - ✓ 行政、空港ビル会社、交通事業者、観光関係者等の関係団体との更なる連携強化を図り、空港利用促進に向けた具体的な施策を推進する。 等

3. 定量的目標の考え方

◇ 大分空港における定量的目標の設定(たたき台)

- 大分空港・宇宙港将来ビジョンの実現に向けた定量的目標として、乗降客数目標を設定。
- 乗降客数目標の設定にあたっては、IATA(国際航空運送協会)による新型コロナウイルス感染症からの航空需要回復シナリオや過去10年間の大分空港の国内線乗降客数年平均成長率等を基にしている。

